

[学童期の作業療法] 演習

I プログラム立案のポイント

- 1, 学校生活に必要とされる課題を練習するなかで、運動機能を高めるよう企画する。
- 2, 加齢に伴う日常生活方法の工夫
- 3, 対象児の社会参加の援助

II 達成可能な課題か評価（再評価）を実施する。

- 1, 課題分析（活動分析）
- 2, 活動工程で各基本動作が可能か介助すれば可能か、介助しても不可能か評価する。
- 3, 上記の基本動作の背景となっている機能を評価する。

III 評価の整理

IV 問題点の整理（障害の構造を明確にする）

V 治療計画

1, 目的

2, 活動の流れ

- | | |
|-------|--|
| ① ……… | <ol style="list-style-type: none"> 1) 活動姿勢 2) セラピストの役割 3) 活動（作業）の工夫 |
| ② ……… | <ol style="list-style-type: none"> 1) 2) 3) |

3, 効果

- ① 目的とする対象者の反応や環境工夫に対する結果を明確にする。
- ② 開始前と開始後の変化を整理する。

- 例
- 1) 姿勢—写真・図にて記録
 - 2) 行動の回数
 - 3) インタビュー